第27号
令和3年3月発行
関市子ども会育成協議会
【事務局】
関市若草通2丁目1番地
関市生涯学習課内
TEL0575-23-7777

わかくさ

題字：上田 清四

10/18（日） 縄文土器作り体験

塚原遺跡公園

新型コロナウイルス感染
拡大防止のため12月の土器焼きは
中止になり乾燥のみの状態
での展示となりました

11/8（日） 関ジュニアリーダーズクラブ 秋の研修会

安桜小学校体育館

関市子ども会に寄せて

関市子ども会育成協議会 会長 足立 雅彦

令和元年末、中国のある都市で、新型コロナウイルス感染症が発生して猛威をふるい、現地で感染が拡大しているとニュースで報道する傍ら、よその国の話で我々には関係ない話と思いながら、日常生活をエンジョイしていました。

年を明けて令和2年に入ると、世界的な流行が始まりました。日本でも、寄港した海外クルーズ船での集団感染に始まり、渡航者からもウイルスが検出され始め、新型コロナウイルスに対する意識が高まり始めました。

学校等が臨時休校になると、いよいよ身近の話となり、新年度に入ると、子ども会活動に影響が出始めました。

各地の単位子ども会では、春祭りのお神輿等の行事が相次いで中止となりました。子ども会活動で重視している、異なる年齢同士の交流で、特に新入会員（小学1年生）に呼びかけが難しくなりました。

関市子ども会育成協議会全体では、総会が開催できず、書面で行うことを余儀なくされ、会員の皆様にも直接会わない中で、本年度の活動を開始することとなりました。

今年度の行事について

多くが中止・延期となりましたが、来年度に繋がるように配慮した結果です。この状況に負けることなく、安全を確保しながら、有意義な活動を目指して行きたいと考えております。

◎全体行事

6月 インリーダー研修　延期
10月 縄文土器作り体験（塚原遺跡公園）　実施
11月 関ジュニアリーダーズクラブ秋の研修会
（インリーダー研修代替・安桜小学校体育館）　実施
12月 縄文土器作り体験の焼き　中止
1月 縄文土器展示（土器は焼成せずに展示）　実施

◎育成者行事

6月 県子ども会育成大会　令和3年度に延期
8月 県ジュニアリーダー研修会　中止
9月 東海北陸地区子ども会育成研究協議会福井大会　中止
10月 全国子ども会育成中央会議・研究大会　令和3年度に延期
2月 県ジュニア・シニアリーダー交流会　中止
3月 東海北陸子ども会ジュニアリーダー研修大会三重大会
（岐阜県からの派遣は感染状況を考慮して中止）

宮脇子ども会

上之保地区　古田　好

上之保地区の子ども会の中で、宮脇子ども会は子どもの人数が24名と多い子ども会です。

4月は神輿祭り、8月にはキャンプ場にてバーベキューと例年の行事を計画しておりましたが、新型コロナウイルス感染防止のためやむを得ず中止になってしまいました。本年度は活動ができず、また子どもたちの笑顔が見ることができず悔しい一年でした。

宮脇子ども会の役員の提案で、少しでも子どもたちが笑顔になれるように、子どもたち全員にクリスマスプレゼントを贈りました。

向山子ども会

南ヶ丘地区　渡辺 由紀

向山子ども会では、毎年長寿会や自治会、婦人会、地域の方、多くの方々にご協力頂きながら恒例の行事を行ってきましたが、今年度は残念ながら4月から中止せざるを得ませんでした。しかし12月にはお餅つきとボーリング大会を開催することができました。

昨年度までは子どもたちも杵つきをさせてもらっていましたが、今年は地域の方に作って頂いたお餅を持ち帰り食べてもらいました。子ども会だけでなく地域の皆さんにも美味しく食べて頂けました。

ボーリング大会は、会場の御協力のもと感染対策をして行いました。皆離れ離れになってしまいましたが、言わずとも上級生の子が1年生の子を面倒見る姿に感心しましたし、スムーズに進むよう子ども同士声を掛け合ったり助け合ったりする姿は、普段の学校生活の現れだと感じました。

今後しばらくは、どれだけの行事が実行できるかわかりませんが、いろんな場所、たくさんの方々に支えて頂けていることを、子どもたちに伝え続けていけたらと思います。

例年と違う一年

武芸川地区　長井 隆敏

今年は、活動開始直後から新型コロナウイルスが大流行してしまい、緊急事態宣言が出るなど例年とは全く違う一年になってしまいました。

予定していた毎年恒例の子ども神輿も各地区で中止が相次ぎ、学校や自宅でも感染予防に追われる一年となりました。毎年行われるインリーダー研修も中止となってしまいました。

武芸川地区全体の行事はできませんでしたが、緊急事態宣言解除後、私の地区では「お楽しみ会」や「クリスマス会」など開催するか迷うところもありましたが、子ども会を楽しみにしている子も多く感染対策の徹底と子ども会のガイドラインに沿って開催することにしました。

「宝探し」や「ビンゴゲーム」など景品を準備して短時間でも楽しめるようなゲームをやることで低学年の子たちを高学年の子がちゃんと気にかけている姿が見られました。このような姿が見られることが各地区の子ども会で大切にしてほしいところの一つだと思います。

来年度は、まだ活動もどうなっていくかわからないですが、少しでも子どもたちが協力し合えるような活動ができればよいと思います。

コロナウイルス感染に思う

本部役員　兼松 邦夫

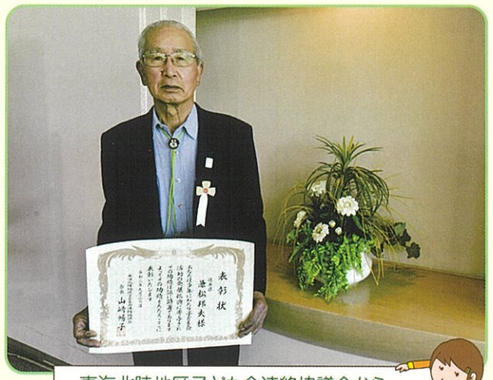
11月に入り感染者が全国的に増え、年末に近づき、人が動く大切な、社会生活ができないことになり、また自粛をしなければなりません。これも命を守る大切なことであり致し方ありません。

人と人との間が離れていくことになり、オンラインに頼る生活に代わり、より一層自己的な人間になる心配があります。

コロナが収束後の事を考えると、今この時期の生活が大切であるかと思う。

この時期にできること・方法を考え、皆で協力し合う、人と人とが助け合う、そんな生活・活動を考え、また密にならない方法、こんな時期をより一層、心と心をつなぎ合える助け合いの人間づくりが大切かと思う。

今の時期は、予測外のことなのです。予測外の生活に挑戦できる思いが必要だと思う。



東海北陸地区子ども会連絡協議会から表彰されました。いつも子ども会のためにご尽力頂きありがとうございます。

振り返り

田原地区　安江　一美

2020年は、東京オリンピックが開催され、世界中が熱狂するであろう年でした。

しかし、新型コロナウイルスの影響で、オリンピックは2021年に延期となりました。小学校でも緊急事態宣言により休校が半年にも及びました。その期間、友だちに会えない、勉強の遅れの不安、習い事に行けない子どものストレスは計り知れません。それと同時に、親も不安でたまりませんでした。それを、いかに子どもたちに悟られず、家で楽しく過ごすことを心掛けました。子どもや主人の会話がいつの間にか絆となりとても良い時間になりました。

学校が再開し、中止になってしまった行事もありますが、田原小学校では、密を避けながら、あいさつ運動を行いました。今年度も「はもみん」や「うかる」が訪れ、マスク姿の子どもたちは、元気に挨拶をしてくれました。

正直、このコロナ禍であいさつ運動をするべきか悩みましたが、キャラクターを見て元気にあいさつしてくれる子や、少し恥ずかしそうにあいさつする姿が見られましたが、それでもたくさんの子が目をしっかり見てあいさつを返してくれました。

あいさつは「心を開き、その心に近づく」という意味を持っているので、これからもあいさつを大切にし、積極的に先生や友だち、地域の方にあいさつができるとよいと思います。

今後の取り組み方について

富野地区　大野　修司

富野では、来年度の1年生がいよいよ10人を切ります。

例年実施してきたスキー研修は、一定数集まる前提でバスやインストラクターを効率的に利用できていたようですが、今後は今まで通りにはいかないようです。今年はコロナ禍で何も実施できませんでしたが、取り組み方を考える時期でもあると感じました。

では、富野は育成会において今後どう取り組めばよいか。個人的には育成会のような場を利用して以下のようなことを親子で楽しく取り組めるものが理想かなと考えます。

〇学校では学べないこと
〇災害時に自分を守る方法

例えば、

〇ピザ窯を作ってピザを焼いてみよう
〇アウトドア系ユーチューバーを呼んで、楽しく生きる術を体験して学ぼう

とか、想像を巡らせてみましたが、何をするにも新しいことをするには役員の負担が大きくなるだろうなと思い留まります。

何をするかの前に、富野としてこの育成会にどのようなスタンスで向き合うのか話すのが先決かなと思いました。来年度の役員の引継ぎ会の際には、少し議論してみたいと思います。

第15回大岡山探検隊

富岡地区　畑田　嘉子

富岡地区では、秋の恒例、校区のシンボル大岡山への登山が行われました。

新型コロナウイルスの影響で子ども会活動が軒並み中止になる中、そんな状況だからこそ子どもたちに良い体験を、との願いから実施されました。参加対象を5･6年生に限定して規模を縮小し、「NPO法人水とみどりを愛する会」の皆様や地域の皆様のご協力のもと、自生植物への興味の喚起、バードコール作りや間伐体験、竹筒パン作りなど、山の自然を奥深く五感を通して体感できました。検温や手指消毒、マスクの徹底など、窮屈な思いをしながらの活動でしたが、子どもたちの弾けるような歓声と笑顔は、マスク越しでもとても輝いて見えました。

昨年度末、突然やってきたこの未曽有の事態。大人でさえもうろたえてしまうほどの制限や我慢を強いられる辛さや悔しさを、純真な心で必死に受け止めている子どもたちには敬意を払います。この事態を乗り越えた先には、柔軟な危機管理能力に長け、思いやりの心をもって活躍している子どもたちの未来の姿があると願ってやみません。

縄文土器づくり体験の思い出

金竜地区　朝倉　あけみ

今年度は、コロナ禍の影響のため、子ども会行事が中止という結果になりました。

毎年楽しみにしている子どもたちの笑顔を見れないことはとても残念でした。

今年度私たち役員は、行事を中止とする代わりにお菓子や図書券を子どもたちに届ける形を取りました。

また今年は、関市子ども会育成協議会主催で「縄文土器づくり体験」のイベントにスタッフとして参加させて頂きました。縄文時代の建物や古墳が復元された公園内での土器づくり体験は、何千年も前の人々の暮らしがイメージされ、タイムスリップしたような不思議な気持ちでした。現在は便利な世の中ですが、こうして土から器を作るという貴重な体験は、きっと親子の心に豊かな想像力として深く刻まれたことと思います。

多くの自然があふれる関市ならではのイベントが、これからも引き継がれることを願っています。そして今のこの社会状況が一日も早く落ち着き、安心して子ども会活動ができることを願う毎日です。

小瀬北子ども会

瀬尻地区　大井　弘樹

小瀬北子ども会は、4月は祭礼の神輿練り歩き、夏休みはラジオ体操、3月はボーリング大会兼歓送迎会を行います。しかし、今年度はコロナ禍により、すべての活動が中止となってしまいました。

その中でも、関市の子ども会活動で土器作り体験のお手伝いをさせて頂き、子どもたちのイキイキとした表情、楽しそうに土器作りをしている姿を見ることができたのは貴重な経験となりました。

大変な一年となり、今後の活動も暗中模索な状況ではありますが、大きく考え方を変えて、今までの活動ばかりに囚われることなく、子どもたちのために何ができるのか、新しい時代のチャレンジが必要になってくると思います。地域住民として、これからも協力して子どもたちの交流を見守っていこうと思います。

コロナ禍での子ども会

倉知地区　太田　布美子

倉知地区西福野2丁目子ども会では、4月の関まつりでお神輿をつり、夏休みのラジオ体操や映画鑑賞会、クリスマス会や歓送迎会など、1年を通して子どもたちが楽しめる行事を開催しています。子ども会の行事は、普段共に登下校をしている他学年同士の子どもたちが、楽しい行事を通して交流できる貴重な場となっています。しかし、このコロナ禍でほとんどの行事ができず、2020年が終わってしまいました。

そんな中、唯一ラジオ体操だけは行うことができました。夏休み前に子ども会育成協議会より『関市子ども会活動ガイドライン』をいただき、参考にして行うことといたしました。各自検温をして集合し、マスクの着用、間隔を空けての整列を徹底し、無事に行うことができました。まだまだコロナの感染が拡大する中、子どもたちの交流の場は減る一方に思います。

不安な日々が続きますが、子どもたちの笑顔が途絶えることのないように、子ども会の活動、育成協議会の活動が今後も続いていくよう、大切に引き継がれていくことを願っています。そして、一日でも早くこの事態が終息することを切に願っています。

子ども会活動

下有知地区　小椋　なぎさ

2020年は、新型コロナウイルスが全国的に広がり、緊急事態宣言が発令されました。

本来なら、4月に花みこしをつり地区を回ったり神社に参拝していますが、今年度はお祭りを自粛しました。重たい花みこしを皆の力を合わせ持ち上げるのは、子どもたちにとってとても貴重な体験になると思います。しかしながら、子どもたちの安全を第1に考え、自粛することにしました。

夏休みのラジオ体操、夏祭り、山の講とすべての行事を今年度は中止しました。その中で、家で何かできることはないのか役員で話し合いをし、山の講で配る景品と共に工作キットも配布しました。バスボールキットを配布しましたが、とても楽しそうに作っている姿を見ることができました。いろいろな行事が中止になる中、少しでも子どもたちが喜んでくれたのはとても嬉しい出来事でした。

コロナ禍による これからの子ども会の在り方

安桜地区　星　　忍

今年度は、コロナ禍により、あらゆる活動や行事が自粛、又は中止となりました。関市こども会育成協議会の活動も、春に行われる関ジュニアリーダーズクラブ研修、関市インリーダー研修が中止となりました。秋の縄文土器作り体験は、人数を例年の半数に制限し、感染予防の措置をとりながら10月の縄文土器作りは行いましたが、12月に予定されていた縄文土器焼きは中止となってしまいました。

そんな中、安桜小学校体育館にて行われた「関ジュニアリーダーズクラブ秋の研修会」。参加児童の体調チェックから始まり、マスク着用、アルコール消毒の徹底、会の間は終始フェイスシールドをつけ、密にならないように体育館全面を広く使い、人との接触がないように気をつけながらではありましたが、とても楽しい研修会となりました。たくさんの規制がある中で、ジュニアたちは参加児童と充実した時間を過ごすために、懸命にアイデアを出し合い、たくさんの参加型レクリエーションを考えてくれました。

このコロナ禍で、どの団体も、感染拡大をおさえながら活動していく事が基本となっています。今までは、コロナ禍だから自粛しよう、中止にしようという動きが大半でしたが、こんな状況だからこそ「規制がある中でも、何か出来る事はないだろうか」「今までとは違った形になったとしても、なんとか活動を続けられないだろうか」と知恵を絞り、新たな方法を生み出していくことが、これからの当面の課題になりそうです。

関市子ども会育成協議会に参加して

旭ヶ丘地区　伊佐地　俊輔

今年度は新型コロナウィルス感染拡大のため、多くの子ども会行事が中止せざるを得なくなりました。たくさんの子どもが楽しみにしていた体験行事がなくなり、子どもたちにとっては残念な一年となってしまい、子ども会育成協議会としての仕事もほとんどありませんでした。

私は旭ヶ丘地区常任理事として、最初の会議に参加させていただいた時のことを振り返りたいと思います。

各地区の子ども会常任理事の方々などが参加していました。そこで昔から携わってみえる方から子ども会育成協議会の成り立ちについてのお話がありました。まだ昭和の時代。高速道路の関インターが完成した時、多くのホテルが建設される予定だったこと。その数は10数件。当時の方が子ども会を結成し、ホテル建設に反対され、今の数に落ち着いたと聞き、私はそのような尽力があっての現在があることに、感謝の気持ちでいっぱいでした。

今後もそんな方々のためにも微力ながら力を注いできたいと思っています。